

# 大腸カプセル内視鏡検査について

この検査は、カメラを内蔵した長さ31.5ミリ・幅11.6ミリの大腸用カプセル内視鏡（以下、カプセルと呼ぶ）をビタミン剤のように口から飲み込むことで大腸内を撮影できる内視鏡検査（以下、カプセル検査と呼ぶ）です。カプセルは大腸内を通過しながら画像を撮影し、その画像は腰に取り付けたレコーダに保存されます。なお、カプセルは使い捨てで自然排出されます。

稀にカプセル検査中、ずっと胃内に留まることがあります。

カプセルは消化管の動き（蠕動）で移動するため、観察場所を任意で決められません。病変が撮影されないことや、大腸全体を観察できないこともあります。病変が無いと診断されても、再度検査が必要になる場合があります。

病歴や手術歴、臨床所見等により消化管の狭窄（狭くなっていること）、瘻孔（管状の穴）が疑われる場合は事前に適切な検査を行い、カプセル検査の実施に問題がないか判断します。しかし、これらで予想できず本検査を実施した結果として腸管の閉塞を生じ、入院及び手術が必要となる危険性は否定できません。また、原因不明の腹痛、嘔吐または閉塞様症状が生じた場合、腹部X線検査を含む適切な検査や処置を実施いたします。

カプセル検査の臨床使用において、2週間以上体内に留まることを滞留と呼びます。カプセルが体内から排便と共に排出されたことが確認されない場合、下剤等により排出を促進することを検討しますが、それでも排出されないときは内視鏡または手術によって取り除く必要があります。

使用する薬剤によるアレルギーショックが起こったとしても一過性のものがほとんどですが、ごく稀に重篤な状態になる場合もあります。これまでに使用された薬剤で具合が悪くなった経験がある場合には事前に必ず申し出てください。

カプセル検査の治験において、重篤な有害事象は報告されていません。治験期間中 67 例中 1 例（1.5%）で軽度の嘔吐が報告されましたが、使用機器との関連はありませんでした。



大腸カプセル内視鏡

## 大腸カプセル内視鏡検査が向かない（禁忌）方

1. 消化管の閉塞（ふさがっている状態）、狭窄（狭くなっている状態）、瘻孔（管状の穴）がある方および疑われる方（造影検査等で狭窄がないことが確認された場合は除く。）
2. 診断確定済みのクローン病の方
3. 骨盤内臓器に対して放射線治療を受け、放射線性腸炎による狭窄が疑われる方
4. 腹部の外科的手術（例えば人工肛門造成術やバイパス術）歴があり、事前の適切な検査にてカプセル検査実施に問題がない事を確認できない方
5. 心臓ペースメーカー又は他の電気医療機器が埋め込まれている方
6. 1ヶ月以内に MRI 検査を受ける予定のある方

## 7. 物を飲み込むことに障害のある方、又はそのおそれがある方

### 患者様に関する注意事項

1. 常時服用している薬（インスリン製剤・循環器系薬等）がある方は、検査前日ならびに当日の服用に関して医師にご相談ください。
2. カプセル嚥下後に腹痛、嘔気又は嘔吐があった場合、直ちにスタッフに連絡してください。
3. 小児が誤って未使用又は使用済みのカプセルをのみこんだ場合、直ちに医師の診察を受けてください。
4. カプセル検査中はレジメン（検査の手順書）の指示に従ってください。
5. カプセルを服用中、病気や何らかの事故等により意識を失った場合に備え、「私は現在カプセルによる検査中ですので、MRIのような強い電磁場の側に近づけないでください。」と記載したカードを首にかけて周囲の方に見えるようにしてください。
6. 検査日は体を締めつけない上下分かれた衣類を着用してください。
7. レコーダ上部のLEDが青く点滅していることを確認し、何らかの理由で点滅しなくなった場合は、速やかにスタッフに連絡してください。
8. 検査中は汗をかくような激しい運動を避け、強く体を屈曲させるような極端な体位を長時間とらないでください。
9. レコーダは精密機器のため衝撃等は厳禁であり、取扱いは慎重に行ってください。
10. 検査中はセンサーを取り外さないでください。

### 基本的注意

1. 強力な電磁場を発生する機器（MRI装置）等を避けるようにしてください。
2. 以下の家電製品や電気機器等から離れるか、これらの使用を中止してください。
  - ① 超高压送電線周辺には近寄らないでください。
  - ② テレビやラジオの送信機、小型無線機(トランシーバ、アマチュア無線機パーソナル無線機)は、カプセル検査中には使用しないでください。
  - ③ 身体に通電したり、強い電波又は磁界を発生したりする機器(低周波治療器、医療用電気治療器、高周波治療器等)は使用しないでください。
  - ④ 店舗や公共施設等の出入口等に盗難防止装置、電子商品監視(EAS)装置が設置されている場合は、立ち止まらず中央付近を速やかに通過してください。
  - ⑤ IH調理器、IH炊飯器、電子レンジ等の強力な電磁波を出す可能性のある電磁器家電製品を使用する場合には、その近辺に必要以上に長く留まらないでください。
  - ⑥ 発電施設、レーダー基地等強い電波又は磁界を発生する機器等には絶対に近づかないでください。
  - ⑦ 携帯電話、PHS端末、コードレス電話等の使用は可能ですが、腹部の機器には近づけないでください。
  - ⑧ 磁石や磁石を使用したもの(マグネットクリップ、マグネット式キー等)をセンサー部分に近づけないでください。
3. 排便の中からカプセルを回収した場合は必ずメタル製収納用袋に入れるようにしてください。当日にカプセルの排出を確認できなかった場合は、必ず医師にお伝えください。

### 検査前日の手順

1. 検査前日の昼、間食、夜は低残渣食を召し上がってください。
2. 19時に腸管洗浄（マグコロールP1包と水180ml）を服用してください。

3. 就寝前に緩下剤（ラキソベロン1本と水80ml）を服用してください。

## 検査当日の手順

1. 検査日は体を締め付けない上下の分かれた衣類を着用してください。
2. 9時より腸管洗浄剤（モビプレップ1000ml と水500ml）の服用を開始します。
3. 45分以内に腸管洗浄剤の服用を終了し、大腸洗浄度をご確認ください。排出された便がだいたい透明に近づいたら、医療スタッフをお呼びください。
4. スタッフが、検査用ベルトの取り付け、レコーダの装着をします。カプセル検査中はセンサを装着したままにしてください。
5. 医師とスタッフの立会いの下、カプセルをケースから取り出し点滅を確認した後に、カプセルを嚙まないように注意しながら1分以内に適量の水で飲みこんでください。
6. カプセル嚙下1時間後までは水分摂取をお控えください。
7. カプセル嚙下1時間が経過したら、追加の薬剤（1. モビプレップ500ml+水250ml+ラキソベロン1本 2. さらに1時間後モビプレップ500ml+水250ml）を飲んでいただきます。
8. 検査中は無理のない程度に出来るだけ歩いてください。
9. 排便時はカプセルの排出を必ず確認してください。また、排出されたカプセルは回収してください。カプセルの回収方法については回収キットに同封されている「カプセル採取の方法」をご覧ください。
10. 当日配布されるイベントフォーム(行動記録メモ)に下剤の服用時刻や違和感等、気が付いたことを記入し、検査終了後に医師または医療スタッフへ提出してください。
- 11.カプセル排出が遅延している場合には、追加の処置（プリンペラン筋肉注射、グリセリン浣腸、内視鏡的摘出）や場合により自宅での検査継続をおこないます。

## 検査の終了について

1. カプセルが自然排出されるか、カプセルのバッテリー切れにより撮影が終了した時点でカプセル検査は終了です。
2. 排便時には必ずカプセルの排出をご確認ください。
3. 自然排出されたカプセルを専用のメタル製収納袋に入れて回収してください。
4. レコーダ、センサ、レコーダポーチ等を医療機関に返却してください。



メタル製収納袋